

弘教寺

# つづじ寺だより



## 弘教寺を支えた歴代住職方

弘教寺住職 中山英昭

前号では、開山以来百五十年、寺をまもり支えた住職方を書き表すことが、できなかったことから、私自身が聞き調べた範囲で、書いてみたいと思います。

弘教寺第二世は、吉田轉海師であります。

確か備前(岡山)の出身であると聞いております。初代赤尾梵震師が事情あつて、この地を去つたあと、明治の初期に当山の住職に着任しています。明治五年寺号公称を許され「弘教寺」となつたことから、轉海師は名付親と言つてよいでしょう。妻みよのさんとの間に一男一女をもうけたようですが、いずれも十代で亡くなつております。その後まんさんを養女として迎えています。まんさんは山口県防府市山内家の後継者であつたようですが、同郷の知人有久(ありひさ)氏に、山内家を継いでもらった上で、養女となつてゐることは興味深いことです。やがて第三世住職となる中山琢雄師を迎え結婚をしましたが、その琢雄師は、小樽別院に勤めていた師を前橋の清光寺さんが、お世話して下さり、入寺したようです。結婚してもまんさんは、吉田



第16号

発行所

〒370-0131  
伊勢崎市境米岡二七九-二  
浄土真宗本願寺派弘教寺  
寺報編集部  
電話0270(七四)0573

の家を絶やすことはできないとして、生涯吉田の姓を名のりました。今という夫婦別姓の走りです。

第三世琢雄師は、山口県厚狭(あき)の寺の出身です。厚狭の寺の住職や、京都の警察官、はては北海道小樽別院の職員であつたりと、かなり破天荒な生き方をした人のようです。現在のつつじ庭園は琢雄師の時代にできたと言われています。一人には子どもがなかつたことから、やはり清光寺さんのお世話で、山口県田万川町玉林寺より、第四世住職となる中山莞爾(私の父)を養子として迎えます。大正十四年春十四才のときに来寺しました。

しかし、その年九月義父琢雄師が往生してゐます。小さな寺で、住職を失ふことは、経済的にも極めて困窮したことでありましょう。

義母まんさんは、気丈な人であつたと聞いています。家計を鍼・灸や裁縫で支え、法務も勤めていたようです。昭和三十四年七十九才で往生してゐますが、戦中、戦後門信徒の皆さんを大事にし、多くの方から、大変お世話になつたという話をたびたび聞いております。

第四世の父莞爾は苦勞の人でした。十代前

半で両親を失い。弘教寺に養子に入るや、すぐに住職(義父)が急逝しています。

太田中学校から日本大学へ進みますが、まもなく、戦争の流れに飲み込まれ、約十年間中国、ニューギニアと転戦するのです。

九死に一生を得て、昭和二十一年に復員し、基子(私の母、まんさんの姪)と結婚し、三男一女をもうけます。父莞爾は、寺をまもる一方、県職員として福祉の道を歩みます。児童福祉の分野では、群馬での草分け的存在であつたようです。昭和四十六年長男(弘英)を病失して後、昭和四十七年五月に仏教婦人会を創設、昭和五十五年より毎月一日の早朝の正信偈読誦会を実施するなど、教化活動に一層励みました。昭和五十七年第一回本堂庫裡の改修事業の半ば、七十二才で往生します。誠実、温厚な人柄から、多くの門信徒、知友が、その急逝を惜しまれました。前坊守(基子)については、第八号で詳述しましたので略します。



開山百五十年の弘教寺

第五世英昭(私)は、昭和五十七年十月より住職を拝命し、前住職の志を受け、仏壯・仏婦の更なる発展のため、教化活動に邁進しているところです。坊守(恵子)とは、平成六年結婚、二男をもうけています。

弘教寺フェスタ

開山百五十周年記念

開山百五十周年記念行事の一貫として四月二十九日に弘教寺フェスタが開催され、多くの皆様のご参加により、盛会のうちに終えることができました。ここにフェスタの一部を紹介させていただきます。

午前の部 <子供のつどい>

六十五名という想像以上の参加者で受付が混雑状態での始まりでした。

阿弥陀さまの前で、ご住職の話しを神妙な表情で聞いていた顔が、「遊びの学校」になると無心の笑顔に一変しました。遊びの達人・山崎先生の巧みに遊び心を捉えた指導で、身体をいっぱい使つての遊びに夢中にさせられた子供たちでした。日頃はゲームなどで部屋に閉じこもりがちの子供達も、身体を動かしての遊びの楽しさを教えてくれた「遊びの学校」でした。



遊びの学校の風景

次は満員の本堂での「マジックショー」です。伊勢崎マジシャンクラブ会員、久保田氏・須藤氏・津久井氏三名の個性豊かに繰り出す手品で子供も大人も大感激のショーでした。



鳩の手品風景

三人の鮮やかな手さばきの芸はとても素人と感じさせず、子供たちを不思議の世界に導きます。

手品の「どうして？」が見る者に不思議を感じさせる魔力で、純粋な心と眼の子供たちの表情を真剣そのものにしていきます。

今回の「遊びの学校」「マジックショー」は子供たちには初めての体験となり、思い出に残る楽しい一日になったことでしょう。

(橋本ま)



鳩の手品での表情

午後の部 <浪曲会>

賑わいを見せていた「遊びの学校」「マジックショー」に引き続き、午後の部が始まりました。午前中ぱらついていた雨も上がり、薄日も差しはじめてきた中、つつじ庭園において福永社中の皆さんのおもてなしによる抹茶接待が行われました。例年になく肌寒い日が続いていたため、庭園のつつじの開花状況も懸念されていましたが、七・八分咲きに咲きそろった色鮮やかなつつじを鑑賞しながらの

一服は、心休まるひと時であったことと思います。その後、今回のメインイベントである浪曲会が行われました。現在、日本浪曲協会会長として活躍中の澤孝子師匠とその一門の澤雪絵さん、そして三味線奏者の佐藤貴美江さんにお越しいただきました。

澤孝子師匠は、昭和二十九年にこの世界に入門され、NHK第一回浪曲新人コンクールで最優秀賞を受賞、昭和五十七年には芸術祭参加優秀賞を受賞されるなどの輝かしい実績をお持ちの方でございます。

澤雪絵さんの「花のお七」の一席に引き続き、澤孝子師匠による「徂徠(そらい)豆腐では、熱の入った迫力ある、しかも聞く側に笑いを醸(かも)し出す余裕たっぷりの語り口に多くの方が魅了されたことと思います。

日本独特の話芸を生で堪能できる機会を得、

古典芸能である浪曲が一層身近に感じられたひと時でした。多くの方々にお越しいただきつつじの香りと共に、心地よい余韻に包まれながら大盛況のうちに終了しました。

(栗原ま)



澤孝子師匠の熱演



抹茶接待の風景

成勝寺様ご一行との交流会

去る六月五日、世田谷区の成勝寺様ご一行十一名を迎え、弘教寺で永代経法要参拝と伊香保温泉一泊の交流会が行われました。

成勝寺様と弘教寺のお付き合いは、数年前から仏社の東京教区の研修会で親しく交流が始まり、昨年十一月には青山劇場の前進座公演「法然と親鸞」を観劇の際、成勝寺に立ち寄り、大変歓待された経緯があり今回はその返礼の意味も含まれておりました。

まずご一行を、群馬県の歴史的背景である新田義貞公ゆかりの寺、世良田長楽寺及び満徳寺資料館を見学いただき弘教寺にご案内しました。

永代経法要では西蓮寺住職艸香雄道師のご法話をいただき、その後、伊香保温泉千明仁泉亭に席を移し、弘教寺からは二十六名の参加で、総勢三十七名の大宴会となりました。

ご住職の歓迎の挨拶、田中総代長の乾杯のご発声で始まり、和やかな宴会になります。

余興は弘教寺アザレアのコーラス三曲、ユカレリのフラダンス三曲が披露され、成勝寺様の方は、バスの中で練習されてきたコーラス二曲と高田総代の漫談が披露された。

二次会はスナック「蔵」で水割り片手に歌とダンスの二時間、楽しい時を過ごしました。

翌日、親鸞聖人の群馬県唯一のご旧蹟、板倉町宝福寺をご案内しました。(この地は、

親鸞聖人が新潟より茨城に向かう途中で上野國佐貫『板倉町』の飢饉の惨状に浄土三部經の千回誦誦を發願しましたが、仏のみ名のほかに何の不足があつて一途に經を読もうとするのか、と思ひ止まった処です。恵信尼書簡)



親鸞聖人ご旧蹟 板倉町宝福寺

成勝寺様ご一行とはここでお別れし、帰路に着きました。成勝寺様とはますます深い縁ができて、よい交流会でありました。(玉田た)

壮年会新役員紹介

◆ 弘教壮年会の役員が改選されました ◆ 新役員構成は次の方々です「敬称略」



会長 佐藤氏

- 会長 佐藤 吉一
- 副会長 泉 勝利
- 会計 橋本 勝
- 監査 田中 岩男
- 教区理事 貝塚 俊市
- 幹事 玉田 忠
- 浅田 豊二
- 神戸 幸雄
- 杉本 修
- 小林 長三郎
- 西 正裕
- 貝塚 君雄

顧問 田中 鐵郎  
事務局 吉田 武正  
よろしくお願ひします

群馬組弘教婦人会連盟総会・研修会

組仏婦連盟の年間行事の一つに「総会と研修会」が行われます。今年度は第十四回として、去る六月十五日に、桐生市の重恩寺で実施されました。弘教寺からは十五名、組内百十名の方々が参加して下さいました。

総会は、各役員が活動報告や計画を発表され、承認を得ることができました。研修会では、誓願寺住職・岩田光哲先生より「安穩―大きなつながりのなか」をテーマに講話をいただきました。梅雨入りの蒸し暑い日でしたが、皆さん熱心に聴聞されていきました。今回も多くの方々のご協力をいただき、無事閉会となりました。(瀬古・釋安徳)

弘教寺ゴルフ会・春のコンペ

第十一回ゴルフ会コンペが五月十三日に大間々カントリークラブで開催されました。

今回は参加者十五名、ネット六十台が九名となる激戦でしたが、ネット六十二の好スコアで貝塚俊市さんが念願の初優勝をしました。

また、六月十一日に群馬会親睦ゴルフコンペが、レイサムゴルフ&スパリゾートで開催され、弘教寺から七名が参加し親睦を深めな



喜びの貝塚さん

がらプレーを楽しみました。なお、住職が健闘し参加二十七名中、五位に入る好成绩を収めました。(貝塚き)

第二回・子供のつどい 六月十二日

「熱中! 缶ぼっくり遊び」

弘教寺フェスタに続き、六月は、「作って遊ぼう缶ぼっくり」でした。大きめの果物の缶詰の缶の円上に対になる二つの穴を開け、ひもを通して結び、靴のまま履きます。高学年は、金槌や紐の扱いもなかなかうまい。小さい子は、スタンプに手伝わってもらって作り、早速歩く練習をしました。場所を東公民館に移し、陣取りゲームとキャンディパクンゲームに挑戦です。缶ぼっくりで一歩一歩確かめるように歩く子もいれば、走り出して缶を潰してしまう子もいて、応援の歓声と共に大盛り上がりでした。



「作って食べよう」

フルーツポンチ

桃やキウイ、バナナを、一口大に切って、他の果物やカルピス氷と合わせました。代わ

る代わる包丁を使い味付けをし、グループの和が一味加わった美味しいポンチになりました。



自分の手で作って遊ぶことを通して、手伝ったり手伝わってもらったり、言葉掛け合ったりして、異なる年齢の子や祖父母世代のスタンプとも関わり合い、思いを共有して欲しい。そんな願いがかなった一日でした。(坊守)

お盆(盂蘭盆会)

仏教の豆知識(8)

お盆は社会的にも夏季休暇と重なり合って、夏の一大行事のようになっていきます。全国的には「月遅れのお盆」といって八月十三日から十五日が中心です。日本では「お盆になると先祖の霊が帰ってくるから、「迎え火」を焚(た)きお迎えしお供えをしてもてなし、僧侶にお経を上げてもらい、「お盆」が過ぎたら「送り火」を焚いて送り出すという習俗があります。

「お盆」のやり方は地方や宗派によって異なりますが、浄土真宗ではこれらの習俗や考え方にそぐわないのです。先祖の霊が帰ってくるお盆ではありません。先祖はいつも、「一生懸命に生きて」と阿弥陀さまともに見守ってくださいているのです。お盆は特別なお飾りは必要ありません。ご先祖様をおまつりする「精霊棚」「迎え火」などは不要です。

私たち一人一人が、ご先祖や亡き方々・多くの「いのち」によって生かされて生きていることに日々感謝し、念仏申させていただくことが大切なのです。(吉田・釋願船)

◆ 行事予定 ◆ (平成22年 8月~平成22年 11月)

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
8月			13~16日	お盆(盂蘭盆)
	20日	婦人会例会		
	21日	子供の集い		
9月	5日	壮年会例会		
			18日	千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要
	17日	婦人会例会	20~26日	秋彼岸
10月			27日	組ビバーラ 若宮苑彼岸会
	9日	子供の集い	2日	第6期連研(1) 於西蓮寺
	19日	婦人会例会		
	26~27日	仏壮・仏婦合同研修旅行 (千葉:一泊二日)	17日	教区仏教壮年会結成30周年記念大会 築地別院
11月				
	18日	婦人会例会	11~16日	築地別院報恩講

※ 編集後記 ※

W杯サッカー・高校野球とテレビが賑やかになった。観戦で目に付くのが子供の参加です。特に、サッカーは選手入場にキッズがサポートし、高校野球の開会式では少年野球の小学生がエールの挨拶です。次代への期待・願いが込められているものと思われまます。私も子孫に残された人生の歩みを通して、次代に引き継ぐものを残したいと思う日々です。(橋本ま)